

鹽竈神社

しおがまさま

第 205 号



午のひづめが幸運を運ぶ
うまいく御守



年に一度の大祭 鹽竈神社例祭 7月10日 2頁

子供たち 御神田でお田植え 3頁

博物館だより 古絵図にみる昔の塩竈 5頁

鹽竈神社例祭

七月十日(金)

来る七月十日(金)に鹽竈神社例祭が斎行されます。

当日は午前十一時より、神社本庁からの献幣使参向を得て斎行され、式中には特殊神事「御出幣式」が執り行われます。

御出幣式では、別宮・左宮・右宮の各本殿内に奉安されている御神幣を禰宜三名が奉戴して楼門まで進み、まず南面して左・右・左の順に振り奉り、次に北面して同様の所作を行います。この神事は、国家の安寧を祈るもので、古くは国司が司ったと伝えられ、近世江戸時代までは別名「御朝参神事」とも称して、筆頭禰宜家が相伝する秘事とされてきました。

また例祭に伴って行われる流鏑馬神事は、本年七月十二日(日)の午後二時より境内の馬場で斎行されます。当社では、三人の射手が三ヶ所の的を三回、合計二十七回騎射を行います。

このほか例祭を奉祝し、絵馬殿で市内小学生による書道展が開催されます(十日まで)。ぜひご覧ください。



宮城県無形民俗文化財

藻塩焼神事

「藻刈神事」 七月四日

「御水替神事」 七月五日

「藻塩焼神事」 七月六日

右の三日間、市内本町に鎮座する御釜神社において、御祭神・塩土老翁神にゆかりの特殊神事「藻塩焼神事」が斎行されます。

この神事では、海藻を用いて高濃度の塩水(鹹水)を得、これを煮詰めて塩を作る一連の工程を儀式として再現。古代の製塩方法の一端を伝える貴重な神事として、昭和五十四年に宮城県の無形民俗文化財に指定されました。

神事で調製された粗塩は、引続き行われる御釜神社例祭、また十日の鹽竈神社例祭でそれぞれ御神前にお供えされるほか、当日の参列者にお頒ちします。



第79回 塩竈みなと祭

七月二十日 海の日

七月二十日(月・海の日)、「やしろと魚のまち」塩竈を挙げての祝祭「第七十九回塩竈みなと祭」が斎行されます。

当日は、志波彦様・鹽竈様御両社の大神輿が市内を巡行ののち、御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」に奉安。日本三景松島湾を舞台に大

小百隻からなる供奉船団を従えて壮大な海上絵巻を繰り広げます。

来年の第八十回に向け目下、塩竈みなと祭協賛会による新御座船の建造が進められており、現在の御座船は今回が最後の海上渡御となります。



氏子崇敬会

春季大祭

当社氏子崇敬会は五月十日、同会一年で最大の行事である春季大祭を鹽竈神社左右宮において斎行しました。

当日は、桑原茂会長以下一五七名が参列。献饌に続き、会員達が納めた初穂料を載せた三方が、桑原会長により御神前にお供えされました。

祭典終了後、拝殿において永年継続の会員に対し、表彰規程に則り表彰が行われましたので左記に御紹介します。(敬称略)

令和八年度継続会員表彰者

◇四十年表彰

〈東部〉

港町三・四

鹿又 章宏

◇二十年表彰

〈南部〉

野田一

鈴木 和郎

〈北部〉

新浜町一

山内 英房

〈東部〉

特別区(野村)

野村 竹市

〈単独〉

鈴木 孝三

◇十年表彰

〈南部〉

南町一

伏見 芳則

敬神婦人講だより

当社敬神婦人講は四月二十二日、令和八年度の総会を開催しました。宇仁一美講長以下四十八名が出席し、総会後には伊勢の神宮のビデオ動画を鑑賞。

前回第六十二回神宮式年遷宮のお木曳き行事の様子に、講員たちは遙か伊勢の地に心いざなわれていました。

また六月二十日には仙台市太白区の大年寺の伊達家歴代墓所をお参りし、山形県の湯殿山神社(里宮)や高畠ワイナリーなどを訪れました。



御神田御田植祭

五月九日、神社境内にある御神田で「御田植祭」が斎行されました。

早乙女・早乙男姿の氏子少年団やボーイスカウトの少年少女たち約一五〇名の奉仕者は、晴天のもと三・九アールの水田に足を踏み入れ、ササニシキの苗を一株一株丁寧に植えていきました。

秋に収穫される御神田米は、十一月二十三日「新嘗祭」で行われる初穂曳で御神前にお供えされます。



銅板奉納者芳名

御社殿等の銅板屋根修復のため、左記の方々より御奉納いただきました。

(敬称略)

三月 名取市

本郷 敦子殿

四月 鳥取県

山本百合子殿

五月 埼玉県

松本 雅彦殿

ほか二〇五名

ご結婚おめでとぅございます

二月から五月にかけ当社で華燭の典を挙げられた方々を左記に御紹介します。
(月日順・敬称略)

二月		仙台市	藤田 鎮雄
北海道		柿村 月袈	
三月		宮城郡	下山 浩
福島県		佐藤 栄美	
福島県		二瓶 広之	
仙台市		関 あやめ	
四月		山形県	池田 寛明
大阪府		島 桃子	
神奈川県		小齊平真樹	
塩竈市		境 彩花	
仙台市		坂 昌樹	
宮城郡		齊藤 侑里	
塩竈市		三塚 厚志	
塩竈市		齋藤 杏美	
ドイツ連邦共和国		ビスエル・アレクサンダー	
仙台市		遠藤 佳那	
高知県		大野 敦哉	
仙台市		藤 ずか	
五月		塩竈市	久保 凌
多賀城市		安藤 萌絵	
仙台市		柴崎浩一郎	
遠田郡		本郷 雅	
仙台市		川和田宗太郎	
青森県		秋元 哉子	
茨城県		澤 智大	
塩竈市		板垣日向乃	
仙台市		佐藤 和樹	
仙台市		菅野千佳子	
名取市		佐藤 祐介	
仙台市		佐藤 栞	
宮城郡		地主 竜裕	
名取市		大村 彩子	
愛知県		南 有輝	
多賀城市		相澤ひなの	
青森県		日景 良一	
東松島市		大山 愛	
秋田県		藤江 亮太	
遠田郡		高橋 衣織	
富谷市		高田 優大	
塩竈市		玉手 麗奈	
千葉県		齋藤 龍一	
塩竈市		鈴木 麻希	
仙台市		早坂 翔児	
石巻市		草刈 咲樹	
石巻市		窪田 鷹実	
塩竈市		高山真梨子	
仙台市		木須 弘樹	
名取市		齋藤 和華	
塩竈市		佐藤 玄基	
柴田郡		遠藤しおり	
塩竈市		齊藤 大晃	
仙台市		阿部ちひろ	
塩竈市		長嶋 俊	
仙台市		梅原 礼	
千葉県		近藤 俊人	
福島県		小沼榮里奈	
千葉県		加藤 光	
東松島市		佐藤菜々子	

境内の池にメダカが奉納

境内の池にこの度、当社総代の千田忠一殿よりメダカ約三〇〇匹が奉納・放流されました。

池は鹽竈神社楼門の側、手水舎の裏手にございます。メダカは警戒心も強く、水草の影にかくれています。そつと覗けばご覧になれるはずです。境内の名所が一つ増えました。

東北式内社顕彰会 第九回巡拝会実施

当社内に本部を置く東北式内社顕彰会は三月十八・十九日の両日、第九回となる巡拝会を実施しました。参加者五名。

北上駅を出発した一行は、秋田市内の総社神社を正式参拝。川尻孝紀宮司から御由緒を拝聴し、次いで古代官社（式内社）が国家の幣帛を受けていた平安時代初期の造営になる国史跡「弘田柵」を見学。対蝦夷の防衛線として機能していた砦や門の復元建造物を見ながら、古代に思いを馳せました。



湯田ダムを訪問。管理所員の案内によりダムの外観と、内部の最深部まで見学しました。全国屈指の重力式アーチ型コンクリートダムの堤観に参加者一同圧倒されていました。



博物館だより

■展覧会の御案内

この度、東北歴史博物館において特別展「塩竈・松島―歴史・ひと・美術―」が開催されます。同展は、歴史的な背景や来訪した人々、絵画作品に描かれた姿などに着目して塩竈・松島の文化的魅力を御紹介する展覧会です。同展にあわせ、瑞巖寺宝物館ならびに当博物館では、関連展示を企画しております。

当館の関連展示は常設展料金にて御覧いただけますので、御参拝の折にお立寄りいただきたく御案内申し上げます。

東北歴史博物館特別展

塩竈・松島―歴史・ひと・美術―

◇主催 東北歴史博物館

◇共催 瑞巖寺、志波彦神社・鹽竈神社、NHK仙台放送局、河北新報社

◇会期 七月二十八日(火)～

九月二十三日(水・祝)

◇料金 一般 一、四〇〇円

小中高校生 七〇〇円

■資料紹介

今回は、江戸時代後期の博物館周辺と付近からの眺めを描いた絵図をご紹介します。

当博物館は、代々鹽竈神社に奉仕した社家の一つである藤塚家の屋敷地の一面に位置します。藤塚家歴代のうち藤塚知明(ともあき、一七三八～一八〇〇)は、知識人として広く名を知られました。

滄溟楼春望図は、知明の養父・知直(ともなお)の隠居所である滄溟楼(そうめいろう)から南方の眺めを描いたもので、当時の博物館周辺の様子がうかがえます。注記によれば、画面中の建物(右手から菓子(南京糖)を売る茶屋、金華楼(きんかろう)、子供らの手習いのための翰墨場。遠くには太平洋が望まれます。

金華楼は、知明が来客を応接するために設けた施設で、現在の博物館下の東屋あたりに斜面に張り出すようにして建てられていました。遠く金華山を望んだことからの命名といえます。この金華楼からの眺めを描いたのが金華楼春望図で、画面右手の江尻山(泉ヶ岡)には愛宕神社が鎮座し、その下段には知明が設けた煙波亭(えんぱてい)が建ち、左手には水際が町中に入り込んでいる様子がみられます。

これらは、前記の「塩竈・松島」展の関連展示にて公開予定です。



▲滄溟楼春望図



▲金華楼春望図



祭事案内

七月から九月

毎月

一日 朔日祭

六日 曲木神社月次祭

十日 御釜神社月次祭

二十九日 鹽竈神社月次祭

志波彦神社月次祭

七月

四日 藻刈神事

五日 御水替神事

六日 藻塩焼神事

御釜神社例祭

牛石藤鞭社例祭

鹽竈神社例祭

流鏑馬神事

みなと祭

八月

一日 曲木神社例祭

九月

二十九日 志波彦神社遷座記

念祭並に氏子崇敬

会秋季大祭



天皇皇后両陛下御渡航行幸啓に際し

安泰祈願祭を斎行

天皇皇后両陛下には、去る六月十三日より二十六日までオランダ王国とベルギー王国を御訪問あそばされまし。

全国の神社では両陛下御渡航行中の御安泰を祈る祈願祭が斎行され、当神社でも十日御渡航行前に御安泰祈願祭、御帰国後の二十九日に還幸啓奉告祭をそれぞれ中祭式にて斎行致しました。



文芸欄

新緑の眩しき里に父と母
通販で本と新茶と白寿かな
鯉幟泳ぐ蕎麦屋の子沢山
湯治宿河鹿の声も一品に
棹に身を反らし舟頭峡の藤
青春の螺旋階段緑さす
新緑やA-Iロボット走る走る
えさ箱の側で語ろう雀の子
舞殿に桜舞い散る親子獅子
撫牛を撫でて鹽竈桜かな

菅原 和子
佐藤 悦子
佐藤 光江
池田 智恵子
鈴木 ゆう子
上田 由美子
今田 須美子
星 美恵子
今野 紀美子
及川 源作

参拝記録

三月

十二日 奈良県葉師寺副住職

大谷徹英殿 ほか三十名

三十日 塩釜警察署署長 北浦智之殿

四月

二日 塩釜警察署署長 荒 達也殿

二十日 鹿島神宮氏子青年かなめ会

会長 三宅正剛殿 ほか九名

五月

二十三日 塩竈神楽保存会

会長 本郷信弘殿 ほか五名

二十八日 大館神明社

宮司 佐藤文人殿 ほか三名

当社博物館学芸員

菅野美術館で記念講演

当神社博物館の茂木裕樹学芸員が六月二十日、市内玉川の公益財団法人菅野美術館（菅野喜興館長）にて「錆を愛でる―刀装具を例として―」と題し講演を行いました。

これは同館の開館二十周年記念企画の第一弾として企画されたもので、茂木学芸員は金属の錆の風合いを「美」として捉えてきた日本人の美意識を、刀の鐔などを通じて説明。参加者の一人は「制作の際に作者が意図的に錆を施していたことに驚いた」と感想を語っていました。

人事異動

新任

四月二日付

社務員

五月十二日付

巫女

六月二日付

巫女

学芸員

六月二十一日付

社務員

佐藤 義宜

伊藤 未央

浜野 咲

小野 果凛

郷原 裕生

堀場千代子

森山

またなおか

一森山の境内の木々も、日ごとに緑深くなつて参りました。ここに社報「鹽竈さま」第二〇五号夏号をお届けいたします。

社報「鹽竈さま」第二〇五号

発行日 令和八年七月一日

発行所 志波彦神社 社務所
鹽竈神社

〒九八五―八五一〇

宮城県塩竈市一森山一番一号

電話（〇二二）三六七―一六一（代）

<https://shiogamajin.jp/>